

平成28年度北海道男女平等参画チャレンジ賞贈呈式

懇談内容

日時：平成28年1月23日（月）16時00分～16時30分

場所：北海道庁本庁舎3階 知事会議室

折谷 久美子さん（NPO法人スプリングボードユニティ21 理事長）

女性や市民が気軽にまちづくりに参加できるようにと、今から18年前にNPOを立ち上げました。当時は、まちづくりと申しますと、男性が多く、わたしたちは、お祭りを盛り上げることで地域に貢献したいと考えました。

当初は、「函館名物いか踊り」に参加するために立ち上げたのですが、お祭りは年に一回だけです。もっと年間を通じて色んな方と力を合わせて活動していきたいと思うようになりました。

まずは、函館は港町ですので、平成15年に「みなとまちづくり女性ネットワーク函館」を立ち上げました。その後、国道や道道沿線にお花を植える、花いっぱい活動を続けております。お花は春から秋までなのですが、冬場も皆で活動しようと、キャンドルの活動を行っています。昨年の北海道新幹線開業イベントでは、知事にもお越しいただきまして、函館駅、新函館北斗駅、木古内駅に設置するワックスキャンドル3本にメッセージを書いていただきました。そのときの記念写真を今回サプライズで知事へお持ちしました。

今年のキャンドルの活動は、2月4日（土）から、シーニック de ナイト2017として開催します。今までお花の活動、キャンドルの活動、色んな活動をして参りましたが、この度、渡島総合振興局から声をかけていただき、初めて「ボランティアしながら素敵な出会いを見つけませんか」という「ボラ婚」という形で、1月28日（土）、20代から40代の男女が30名ほど集まってキャンドルによる婚活をすることになりました。

振興局の会議室で参加者が一緒にキャンドルをつくり、完成したキャンドルを2月5日（日）に五稜郭公園のお堀の外周に灯すという内容です。キャンドルの活動が少子化対策の方で繋がっています。

お花の活動もそうですが、地域の皆さんと一緒に活動させていただいたおかげで本日、輝く女性のチャレンジ賞という女性のあこがれの素晴らしい賞をいただくことができました。応援してくれている仲間も一緒になって喜んでおり、感無量です。

先ほど申し上げた婚活イベントで作製したキャンドルだけでは、五稜郭公園で使用するには足りないため、翌1月29日（日）に五稜郭タワーアトリウムでワックスキャンドルづくりを実施し、2月5日（土）のイベントに向けて、楽しみに準備しております。冬も灯りいっぱい、輝くまちをつくっていきたいと思っています。

上野 美幸さん（株式会社ヨシダホーム 代表取締役社長）

私は5年前に父の家業を継ぎまして、それまで20年間民間の保育園で主任保育士をしていました。父の会社を受け継ぐときに、私は、保育士は自分の天職だと思っていたのですが、父の娘として家業を継いで、地域に根ざしていくということも、また、ひとつの考えだと思い、住宅メーカーとして地域に根ざす会社をとがらばってまいりました。その中で女性目線であったりということもあったのですが、自分の中では出来ないことの方が多かったので、凄く自分を卑下した

こともありました。教え子たち、保護者たち、保育士だった頃の仲間に支えられて、自分の強みは保育士であること、女性であること、そして母であることだと思いました。そういうことを踏まえながら、仕事をしていこうと決めたのが5年前でした。そんな中で、教え子に出会ったりですとか、デザインなども女性目線でさせていただいて、子どもからお年寄りまでというデザインをしてきました。色々な人たちに支えられて、今日があるなと感じています。

保育士をやめても、子どもたちの手本になるためにはどうやっていったらよいのだろうと、子どもたちに「しちゃだめだよ」ということや「がんばってね」と言ったりすることを、大人の私がどう表現したらいいのだろうということを考え続け、父の会社で表現させてもらいました。

2年前に音更町で学童保育のプロポーサルがあり、「株式会社にもチャンスを与えてくれる」ということだったので、私のできることで地域貢献がしたいと挑戦し、受託することとなりました。たくさん子どもたち、たくさん保護者たち、たくさんの人たちに支えられ、ここまでできました。今日この賞をいただけたことも、皆さんのおかげだと感じています。

今日一緒に来ていただいた、昨年の受賞者の長岡さんとも同じ思いで活動していて、昨年に引き続き十勝で受賞したということで、二人で「笑顔」に特化した活動を続けていこうと、この賞が私にとって、新たな自分を表現できるチャンスと思っています。

高橋知事

折谷さんの活動は本当にとっても長いんですね。歴史を経て色々試行錯誤されながら通年の活動をされてこられた。

折谷 久美子さん

なかなか思うとおりに進まないときは、「続けられるのかな」と思うことも多々あったのですが、地域のみなさん、行政のみなさんに、地域住民のひとりとして協力していただき、自分はひとりじゃないんだと思いました。皆さんの支えがあって、ここまで活動できました。

このいただいた賞を糧に、これからも地域の皆さんと活動を続けていきたいと思っています。

高橋知事

渡島総合振興局との取り組みで、ボウ婚からカップルが出来れば、また地域の活性化にも繋がりますね。

折谷 久美子さん

人数は、男性女性各15人の予定で、当初応募人数が気になりましたが、定員を超えましたので、準備する私どももとても楽しみです。

高橋知事

本当に楽しみです。よろしくをお願いします。

上野さんは、お父様の住宅建設の会社を引き継がれていて、学童の申請というのは、事業の多角化ということですね。建築分野と学童というのは、上野さん自身は、保育士としての経験がありがたいになるのですが、会社として、スタッフの方達は戸惑われることもあったのでは。

上野 美幸さん

はい。当初は戸惑っていましたが、今は皆の理解を得ています。本当に、当初は「この会社はつぶれる」とみられて、社員が半分辞めていきました。その中でスタートは、家族に支えられたということと、友人に支えられたということを感じていました。

高橋知事

十勝は、去年の8月に台風に見舞われ、住宅関係も色々な影響も出られてたと思いますが、そちらもお忙しいのでしょうね。

上野 美幸さん

はい。メンテナンスに行かせていただいたりだとか、私にできることということで、「はなちゃんの味噌汁」という映画の上映会を、地元の食育関係の方を巻き込んで開催したのですが、その際にたくさんの義援金を集めることができ、被害に遭われた方へ届けに行くという活動もいたしました。

高橋知事

「はなちゃんの味噌汁」という映画はどのような内容なのですか。

上野 美幸さん

「食」の話なのですが、九州に実在されていた方を映画化したもので、母親が乳がんになってしまったのですが、その際に妊娠して子どもを産み、その子が生きていけるように、味噌汁の作り方を、出汁をとることから教え、「食べることは生きること」ということを題材にした映画です。私は保育士として、食育ということがとても重要だと考えてきました。「食」を意識することで、育まれるものがたくさんあると思っています。例えば、コミュニティだったり、体もそうなのですが、食べることで育まれるコミュニティを地域で広げていきたいということで、家族愛と食をコラボさせて、地元の方々に協力してもらい、30店舗ほどマルシェに出店し、800人ほど集客することができました。

高橋知事

保育士を20年され、最初の頃にお世話した子どもたちは、もう30歳近くになってくるということですね。

上野 美幸さん

はい。最初に関わった子どもたちは30歳くらいになっています。社会人講師として小学校、中学校、高校に出向いて、まだ学生の教え子達に会うことがあります。道庁が作成した資料をもとに北海道で働くことや北海道の子育てのことや少子化についても学生に話をさせていただいています。学生たちも身近に感じていなかったことですが、「大人になってから考えることじゃない」ということをその資料には書いてあって、それを伝えることもしています。

また、現在、日本には150万人ほどの保育士の資格者がいますが、実情50万人しか従事していないということですが、プロがもっと前に出てきて、子育てだったり、生活の楽しさだったり伝えられるような場をつくっていききたいなと思っています。

高橋知事

道では、保健福祉部の事業として、保育士が不足していて、待機児童の問題で、主として札幌市の問題になるのですが、これを解決するために、保育士資格をもってらっしゃる方々にもっと活動していただこうと考えています。そのためには、処遇の改善が必要ですし、また、保育士をされる方々がご自身のお子さんをどうされるかという問題もあり、解決が必要と検討していますので、上野さんにも活動を広げていただきたいですね。

これからも、お二人には、是非がんばって頂きたいと思います。